

## 昭和の地名をたずねて(5) 生越 戦国武将に関わるか

昭和村生越、赤城山の北麓、片品川の下流左岸に位置し、貝野瀬地区の北東にあたる。

生越村の由来として「利根郡誌」によれば、応仁の乱後、北条早雲に仕える林丹後という武将が、早雲の勘気を被つて各地を漂流するうち、赤城山中で樵の娘を妻とし、その地を生越と称したという。この地の東方一帯を南生越と称し、転訛したものであろうとされている。また「わが赤城根村」では、往時、生越郷と呼ばれ、多那、青木輪組、日影南郷、砂川がその区域内にあり、生越村はそれらの村々の中心であつたという。

生越は、沼田藩領をはじめ、天保元年(一六八二)幕府領、文化九年(一八二二)旗本鈴木氏領。明治に入り群馬県、北勢多郡を経て赤城根村の大字となり、昭和三十一年利根村、同三十六年から昭和村の大字となる。

「天保郷帳」によると村高は百五十三石一斗六合、明治十年の戸数は五十三戸、人数は男百七人、女百十三人、村の南部は生越野と呼ばれる林場(飼料・肥料採取を目的とした原野)であつた。こ

こは貝野瀬、生越、糸井、椋久保、森下、川額などの入会村であつた。片品川西北の尾合、平出、上久屋、下久屋は入会村でなかったが、しばしば出入りがあり紛争が生じていた。「わが赤城根村」には、八件におよぶ紛争があつたと記され、当時の農民の生活と暮らしの一端がうかがえる。

そんな中で、全国でも有数な河岸段丘上に開かれた生越集落には、横井戸、利根33カ所観音の第23番目にあたる清水の松尾観世音、恵光寺などの文化財をはじめ、昭和五十八年のあかぎ国体に伴い、こけの研究で先の昭和天皇陛下が本村で唯一行幸した集落であり、田園風景が広が



全国でも有数な河岸段丘

参考 利根沼田歴史民族辞典等  
昭和村ボランティアガイドの会

会長 倉澤 俊雄



地域包括支援センターだより

## 昭和村地域包括支援センターのご案内

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんの身近な総合窓口です。

地域で暮らす高齢者のみなさんがいつまでも住み慣れた地域で生活ができるよう、介護・福祉・健康・医療など、専門の職員がさまざまな面から総合的に支援します。

例えば…

- 「足腰が弱くなってきた」
- 「もの忘れが多くなってきた」
- 「介護サービスについて知りたい」
- 「親の介護や認知症が心配」
- 「お年寄りを怒鳴る声がある」など

気になること、  
困りごとがございましたら、  
お気軽にご相談ください。

### 昭和村包括支援センター

住 所：昭和村大字糸井6 2 4 番地  
(昭和村社会福祉協議会内)

電話番号：20-1126

営 業 日：月曜日～金曜日(祝日と年末年始を除く)

営業時間：午前8時15分から午後5時15分まで

### 担当する専門職

|         |       |
|---------|-------|
| センター長   | 新木 卓巳 |
| 介護支援専門員 | 関上 俊行 |
| 社会福祉士   | 林 学   |
| 保健師     | 青山 蓮  |



問合せ 地域包括支援センター ☎20-1126

